

昭和四十七年五月招集

第一回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會



# 目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	二
議事日程	二
開會	二
議長の報告	二
會議録署名議員の指名	二
会期の決定	二
提案理由の説明	三
報告第一号	六
議案第四十二号	六
議案第四十三号	二四
本日の會議に付した事件	二五

一、昭和四十七年五月二十五日（木曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 二十五名

一	番	吉田 勇治郎	二	番	林 豊
三	番	流山 源次郎	四	番	鈴木 稔
五	番	近藤 好雄	六	番	栗原 一雄
七	番	渡辺 昭夫	〇	番	渡辺 軍治郎
一	番	山本 昇	一	番	藤田 益治
一	番	五十嵐 昇	一	番	伊賀 多朗
一	番	和田 一郎	一	番	辻井 謹爾
一	番	宮野 敏朗	一	番	安西 益男
一	番	島野 茂樹郎	二	番	君塚 喜三
二	番	鈴木 市蔵	二	番	田村 源治郎
二	番	西村 真次	二	番	飯田 義男
二	番	望月 照正	二	番	田中 禄郎
三	番	遠山 ヨネ子	二	番	田中 禄郎
一、欠席議員 五名					
八	番	石井 武敏	二	番	安田 徳順
二	番	菊井 敏博	二	番	安田 徳順
二	番	秋山 六三郎	二	番	安田 徳順
一、出席説明員					
市	長	本間 譲	助	役	島山 伝
収	入	役 高木 哲三	秘	書	課長 太田 博雄
人	事	課長 小沢 正治	庶	務	課長 小倉 澄雄
財	政	課長 長谷川 広治	土	木	課長 飯田 治男
			兼	建	築課長 飯田 治男



交通課主幹 岩田 実 教育長 高木 正  
 (消防本部次長)  
 教育委員会 黒川 芳郎 教育委員会 小宮 義夫  
 庶務課長補佐 川上 賢爾 学校教育課長  
 教育委員会 川上 賢爾  
 体育課長

# 一、出席事務局職員

事務局 長 高尾 豊 事務局長補佐 脇田 元始  
 書記 兵藤 恭一 書記 鈴木 哲  
 書記 渡辺 弘 書記 福田 英雄

# 一、議事日程

昭和四十七年五月二十五日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 報告第一号 館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の専決処分報告について

日程第四 議案第四十二号 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算(第一号)

日程第五 議案第四十三号 館山市助役の選任について

開 午前十時五分開会

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十四名、これより昭和四十七年第一回市議会臨時会を開会いたします。

# 議長の報告

○議長(吉田勇治郎君) 申し遅れましたが、議会に先立ちまして議事に入る前に私から一言御報告申し上げます。

今般、五月十八日天皇、皇后さま御主催の園遊会に不肖私がお招きをいただきました。無事その行事を終えて帰りましたことはひとえに議員各位のふだんの御支援のたまものと深く感謝しておりますわけですが、無事園遊会を終えて参りまして、今後ははえある榮に浴したそのときを常に思い浮かべまして、一そう皆さまの御支援のもとに今後とも大いに館山市発展のために微力を尽す考えを強くして参ったものでございます。

以上の次第でございます。はえある榮に浴したことを御報告申し上げます。以上で私の御報告を終わります。

これより会議に入ります。

本臨時会議案審議のため、地方自治法第二百一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がありましたので御了承願います。

# 議案の配付

○議長(吉田勇治郎君) 議案を配付いたさせます。議案の配付漏れはありませんか。一 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

# 会議録署名議員の指名

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、会議録署名議員の指名を行ないます。

一〇番議員渡辺軍治郎君、二二番議員田村源治郎君以上両君を指名いたします。

# 会期の決定



○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、会期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき議会運営協議会の意見は本日一日ということであります。

おはかりいたします。会期を一日と定めますことに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。よって、会期は本日一日と決定されました。

暫時休憩いたします。

午前十時 七分 休憩

午前十時三十五分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

### 提案理由の説明

○議長（吉田勇治郎君） この際、本臨時会招集につき市長のあいさつ並びに提案理由の説明を求めます。

（市長本間 譲君登壇）

○市長（本間 譲君） 御説明の前に一言お祝いを申し上げたいと存じます。

先ほど、吉田議長さんからご発表がございましたように、去る十八日に天皇、皇后両陛下のお召しによりまして、吉田議長さん御夫妻が園遊会に御招待をされて無事にその任務を終ってお帰りになったわけでございます。

このことは、市会議員の皆さま方をはじめ市民の大きな名譽でもあるし、また誇りであろうかと存じます。今までそういうことに接した方は館山市ではございませんわけでございまして、いろいろ御功績もかわれたと拝察するわけでございまして、吉田御夫

妻の名譽ばかりでなく、市民全体の名譽でありますのでお祝いを申し上げたいと思います。どうもおめでとうございました。（拍手）

それでは、議案説明並びにごあいさつを申し上げたいと思います。

本日、ここに第一回臨時市議会を招集し、急務を要する案件について御審議をお願いいたすわけでございますが、会議に先立ちまして一言ごあいさつ申し上げます。

去る五月四日館山市立第二中学校校舎の一部が焼失いたし、議員各位をはじめ市民の皆さまに非常に御心配をおかけいたしましたことにつきまして、その責任を痛感し深くおわびを申し上げます。次第でございます。

これにつきましては、各方面からのあたたかい御支援に対し、衷心より感謝を申し上げます。

その後の原因につきまして、警察当局の調査の結果、生徒のろうそくの火の不始末との発表がありました。詳細については教育長をして説明いたさしますので御了承をいただきたいと存じます。

今後、このような事件を再び起こさないよう関係機関にも強く注意を喚起し、一日も早く復旧をはかり生徒の学習に支障をきたさぬよう努力し、皆さまの御期待におこたえたいと存じております。

本日の付議事件は専決処分の報告一件、一般会計補正予算及び助役の選任であります。

まず、専決処分の報告であります。去る三月の定例市議会に



おきまして廃止の議決をいただきました畑小学校につきまして八月三十一日まで豊房小学校の畑校舎として存続させるため、急拠三月二十四日館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例を専決処分し、四月一日から適用をすることといたしましたので、議会に報告し、その承認をお願いをいたしたいと存ずる次第でございます。

次に、昭和四十七年度一般会計補正予算であります。歳入歳出それぞれ二千三十一万七千円を追加しようとするものであります。

そのおもな内容としましては、ブレハブ校舎建設工事請負費等として一千七百四十七万円、備品購入費として三百八十二万七千円、その他であります。それが財源としまして火災保険金五百二十万円、地方債一千四百四十万円及び火災見舞金七十一万七千円をもって充当しようというものであります。

次に、人事案件としまして助役の選任であります。本市助役が来たる六月二日をもって任期満了となりますので、その後任について法の定めるところにより議会の同意をお願いしようとするものであります。ぜひとも議会の御賛同をお願いしたいと存じます。

以上、付議事件につきまして簡単に説明申し上げましたが、詳しいことにつきましては、課長等をして説明いたさせますのでよろしく御検討願ひまして御決定をたまわうようお願いいたします。私の議案の説明並びにあいさつといった次第でございます。どうも失礼しました。

(教育長高木 正君登壇)

。教育長（高木 正君） 二中の火災につきましては全焼千二百九十一平方メートル、半焼三百五十四平方メートル大きな教育財産を焼失し、その上関係者に多大の御迷惑をおかけしたことを申しわけなく思っております。現在その責任を痛感するとともにここに深くおわび申し上げる次第でございます。また事後現在まで皆さま方のありがたい御教授、御協力に心から感謝申し上げます。次第でございます。

ここに原因及びその後の状況を御報告申し上げたいと思うわけでございます。原因につきましては警察の実況見分調書によりますと、五月四日夕刻南側の階段下小部屋においてマラソン部員四名がろうそくの火の消し忘れのためであるということでございます。

まず、マラソン部員でございますけれども、当時は三年生一名二年生十二名、一年生三名でございます。四月中旬から練習を開始されていたようでございます。学校全体としてのクラブ活動の正式発足は四月二十六日でございます。当日は家庭訪問の日でございます。クラブ活動は学校全体として中止するということとでございます。一年生は全員の家庭訪問を行ないますのでしゅうりがございません。二年生と三年生は一部のどうしても家庭訪問しなければならぬ子供だけに限るといふことでございますので四時まで授業をして、それから家庭訪問をやっておるそうでございます。したがって、このマラソン部員の四名の子供たちは自主的に北条海岸に行って四時から六時十分頃まで自主的なトレーニングをし、それから学校にきて階段の下の小部屋にきたわけでございます。



階段の下の小部屋の使用でございますけれども、これはマラソン部員十六名いるうちこの四人が主として使っていたわけでございます。学校側からの報告によりますと三月十日以降この部屋の使用は禁止しておたということでございます。かぎは子供たちがかけたり、はずしたりしていたようでございます。この点、学校及び私どもの監督の不十分の点があつて申しわけないと思つておるわけでございます。

ろうそくの使用でございますけれども、ろうそくの購入は四月中旬頃でこれに火をつけるのは四人の中の主として二人だけでほかの子供たちはやらないようでございます。これまでの期間については子供たちが火をつけたときにマッチを吹き消すとか、ろうそくを吹き消したあとそのしんを指でもむとかいうふうに比較的用心深くしていたようでございます。どうしてろうそくを使っていたかという点、遅くなつて暗いだけではなくてこの部屋を使つてゐることをみつからないようにするには扉をしめて使用しなければならぬということもあつたようでございます。

当日の海岸から六時十分頃学校に向つてきてから、階段下の室はどういうふうにして使つたかといふと、扉はあけたままにして一人の子供が中で着がえしてあります。一人の子供は服を持ち出して着がえしてなく外に出てあります。二人の子供はその室は形状が斜めになつて低いわけでございますので、きものを持って外の通路に出て着がえしておるわけでございます。一番早く着がえた子供は外でグローブで一人で遊んでおりましたけれども、みんなが着がえしてしまつたようなのでそのグローブを中にしまいながら扉をしめて帰つております。

それから、当日の宿直の代行員が学校を巡視してゐるわけでございませうけれども、この巡視は六時半から六時四十分頃だろつたといふことでございます。現場を通つたわけですが、そのときには、発火点ともくされてゐる階段下の部屋の脇を通つてすぐ前に入る出入り口を抜け、南側の便所に行き便所の様子をみてまたそこに帰つてきて、本階段下の室に直面してその出入り口から入つたわけですが、そのガラス戸をあけて便所の通路のほうに行こうといふときに、その通路のほうに二名の子供がおりまして、その子供に早く帰るよといふ注意をしております。宿直代行員はそれから東側のガラス戸にかぎをかけ、その階段の上を通つて二階に行つております。

その後の子供の状況でございますけれども、この四人の子供たちは五、六、七、七日の日に警察の調査を取られたわけでございませうけれども、五、六、七はふだんとほとんどかわらなかつたけれども、八、九日の行動をみて非常にショックを受けたようでございます。現在の状況でございますけれども、そのショックからほとんど立ち直つたようではございませんけれども、一週間一回の正規のクラブ活動のマラソンはやつておりますけれども、その後部活動としてのマラソンクラブについては、四人のうち一人が参加しておりますけれども、三人は参加しないわけでございます。学校としてはほかの子供たちがこの子供たちにショックを与えるような言動をしないように、この子供たちに対して立ち直りを一生懸命やつておるわけでございます。

それから、責任でございますけれども、私たちは県の教育委員会と連絡を取りながら進めておるわけでございますけれども、学



校側に対する少なくとも嚴重な戒告といったようなものは必須であると考えるわけでございます。したがって、私自体としても監督不十分でございますので、その点は責任を痛感しておるわけでございます。

それから、市長の先ほどの発言の中に、今後繰り返さぬようにということでございますが、私たちのほうでは七つの中学校を直後一つ一つ回わりまして、現場で話し合うと同時に、現在は校長会を開き、教頭会を開いてこういうことのないように管理体制を固めることに努力しておるわけでございます。

以上、主として原因を中心にして申し上げたわけでございます。どうぞよろしく願いたいします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で市長のあいさつ並びに説明、教育長の火災原因並びに経過の説明を終ります。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、報告第一号館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の専決処分報告についてを議題といたします。

### （書記明読）

報告第一号 館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の専決処分報告について

## 議案の内容説明

○学校教育課長（吉田隆夫君） 先ほど市長より報告がございましたように、去る三月の市議会におきまして畑小学校を館山市立小

学校設置条例から削っていただきまして、早速県に報告いたしました。その後県から指導がございまして、それは畑地区はへき地に指定されておるわけでございます。したがって、へき地に関する教職員の人事のことにつきましては、たとえ学校を廃止いたしましても、一時的にせよその校舎が引き続いて使用されている場合は条例でうたわなければならないということでございまして、これは緊急を要することとございましたので、市長専決で専決処分書にありますように、豊房小学校を八月三十一日までつまり校舎がでます上りまですまで、豊房小学校を豊房校舎、畑校舎として処置して参ったわけでございます。よろしく願いたいします。

○議長（吉田勇治郎君） 説明を終ります。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

## 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案については委員会付託並びに討論を省略することに御異議ありませんか。——御異議なしと認めます。

## 採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本件を承認することに御異議ありませんか。——御異議なしと認めます。よって本件は承認することに決定いたしました。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第四十二号昭和四十七年



度館山市一般会計補正予算第一号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第四十二号 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算(第一号)

議案の内容説明

。財政課長(長谷川広治君) 議案第四十二号の四十七年度一般会計補正予算の第一号について御説明を申し上げます。

今回の補正予算は、大体第二中学校の災害復旧関係だけのものでございます。内容といたしましては、第一条にお示しをいたしておりますとおり、歳入歳出予算の補正それから地方債の補正二案件でございます。

歳入歳出予算におきましては、歳入歳出にそれぞれ二千三十一万七千円を追加いたしました。歳入歳出の予算規模を二十四億二千二百七千円にいたす計画のものでございます。今回の補正総額は当初予算に対して〇・八%強ということに相なります。

財源的に申しますと、特定財源がこの予算が議決後は二六%四二ということになります。特定財源が〇・六%強増ということに相なっております。歳入歳出予算につきましては事項別明細書によりそれぞれ細かく御説明を申し上げます。

第二条の地方債の補正でございますが、三ページの第二表にお示しをいたしました。起債を目的として第二中学校火災復旧事業として、限度額を千四百四十万に決定をいたしました。それそれ以下起債の方法、利率、償還の方法を追加をいたし補正をいたしたいという計画のものでございます。

続きまして、歳出から御説明を申し上げます。

。教育委員会庶務課長補佐(黒川芳郎君) 歳出額について御説明申し上げます。

この予算は過日火災を起こしました第二中学校の焼失部分の再建に要します予算でございます。

まず、教育費であります。中学校の学校管理費におきまして百三十七万円の減額の補正でございますが、これは校舎等の宮繕用工事請負費の中からすでに契約済みによります修繕、工事の残額を減額いたしました。二中再建の財源に充てようというものでございます。

次に、災害復旧費でございますが、二百六十八万七千円の補正をお願いするわけでございますが、その内訳は十一節の需用費におきまして三十九万円、その内容といたしまして放送センター分修繕料十万円、これは教育放送センターからの放送を受信する三元受信機とその配線の冠水による修理費でございます。

学校施設分の消耗品十四万二千二百六十六円これは焼失いたしました学用品の無償交付によります生徒用の英語辞典二百六十五冊、その他副読本の購入費でございます。

修繕料十四万八千円につきましては、火災の消火の際冠水いたしました電話、放送機等の配線の修理十三万二千円と幻燈器、テープコーダー等備品の修理費一万六千円との合計額でございます。十五節の工事請負費一千七百四十七万円につきましては、学校施設分校舎宮繕工事請負費といたしまして、焼け残りまして現在建っております校舎の修繕工事でございますが、屋根工事、電気工事、建具工事、塗装工事、ガラス工事等を含まして百八十七万



円、それから、校舎再建のためのプレハブ校舎の建設工事請負費といまして千五百六十万、これはプレハブ教室の普通教室十英語教室、保健室各一の合計十二教室分でございます。これには各室とも床を強化し黒板、げた箱、教師用の戸だな、生徒用ロッカーを備えまして、さらに電気工事、水道工事等を含んでございます。

十八節備品購入費といしまして三百八十二万七千円をお願いするわけでございますが、放送センター分の教材購入費百七十三万四千円につきましては、火災により焼失いたしました二〇型テレビ十二台分を五十三万四千円、英語練習装置四十五人分百二十万円の合計額でございます。

学校施設分の校用器具費二百九万二千四百二円につきましては焼失いたしました生徒用の机、腰掛、映写機、プレーヤー、保健室用の器具類等学校におきまして必要といえます教材の購入費でございます。以上でございます。よろしく願います。

。財政課長（長谷川広治君） 以上で歳出の説明を終わりますが、歳出総額二千三十一万七千円の追加額でございます。

引き続きまして、歳入を御説明申し上げます。

今回、歳入といましては、十六の諸収入におきまして雑入五百九十一万七千円を計上いたしてございます。説明欄に記載をいたしましたとおり、市有物件に、本建物は火災共済をいたしてあるわけでございますが、その保険金が五百二十万円、それから火災に対する各近隣町村及び近所の方々、それから関係の方々から見舞金が出ております。その総額が富浦町をはじめといまして、合計七十一万七千円でございますので、今回雑入に計上

をいたしてございます。

災害復旧費で千四百四十万円を計上いたしてございます。起債につきましては交渉の段階でございまして、まだ正式な額は決定をいたしておりませんが、大体事務的な段階におきましてはこの程度の起債の予定でございますので、千四百四十万円を計上いたしまして、その財源に充てるという考え方でございます。

以上、歳入を合計いたしまして二千三十一万七千円ということに相なります。以上、簡単でございますが説明を終わります。

## 質疑応答

。一〇番（渡辺軍治郎君） 二中校舎の焼失に対する責任の所在の問題について教育長から報告がありました。その前に焼失による損害総額がどのくらいか。この金額をお知らせ願いたい。

それから、質問の要点は火災を起こした原因問題ですが、ろうそくの火ということに一つ問題があるわけですが、説明ではろうそくはその日使ったのではなくて、前からろうそくを使っていたらしいんですが、学校側のほうから教育委員会なり教育課に対して電気をつけてくれとか、そういう要請が今まであったのかなかったか。そういう点を一つ明らかにしてもらいたい。

それから、火災の事故の原因をお聞きしますと、不可抗力の事故ではないというふうに考えられるわけです。これが漏電とかそういうことだと、これは不可抗力になります。前近代的なろうそくを使っていたということは相当問題がある。こういうことについて教育委員会が知っていたのかどうか。また学校側からそういうようなことに対して危険があるので電気をつけてくれとい



りような要請があったものかどうか。そこらの点を一つ明らかにしてもらいたい。そういう質問の中で問題を明らかにしていきたいと思います。

。教育委員会庶務課長補佐（黒川芳郎君） 被害金額でございませけれども、建物、備品いれまして五千五百万程度でございませ。

それから、電気の要求があったかどうかという御質問でございませけれども、あの部分につきましては電気の要求は一回もございませんでした。

それから、ろうそくをつけていることを知っていたかどうかというところでございますが、教育委員会としては一切知りませんでございませした。

。一〇番（渡辺軍治郎君） ただいまのお話では、教育委員会の教育課のほうもろうそくを使っていたのは知らなかったというふうに回答ですが、知らなかったで済まされる問題かどうかですね。教育委員会がそういう実情を把握していないというところに一つ問題があるうと思ひます。

それと、学校側と教育委員会との関係でですね。学校側が危険な裸ろうそくを使っていたというようなことは、学校側としてそれをいいこととしてそのままにしておいたということでは、学校側にも大きな責任としてあると思ひますが、少なくとも電気のないところにろうそくを持ち込まなければ、活動後の始末ができないということとは大きな問題だと思ひんです。そのために、五千五百万もの市の貴重な財産を失うということは、かなりこれは問題があるうと思ひます。

今、ろうそくを使うというようなことは、おそらく各家庭で懐

中電気を備えておるとか、ろうそくを使うということはおそらく各家庭でもやらないと思ひます。こういうろうそくを今の時期に懐中電灯を使わないで、生徒がそこらろうそくを裸で火をつけて持ち込むというようなことを認めておった学校側の責任、それを知らないでいたというようなことは、教育委員会としてはこれまた一つ問題があるうと思ひます。そういうことをどのようにお考えになつてゐるのか、お聞きしたいと思ひます。

。教育長（高木 正君） 今の渡辺議員さんのお話してございませけれども、学校側が認めていたというおことはございませした。が学校側は先ほど申し上げましたとおり知らなかったわけでございます。それに対する私の監督不行き届きについては本當に申しわけないと思ひております。

それで、クラブ活動でございませけれども、クラブ活動はまず正規の勤務時間中に終るんだという原則があるわけでございますが、これがまず第一点でございませ。

第二点目は、正規の時間以外は社会体育としての部活動になるわけでございますけれども、社会体育の部活動をやる時には、学校の施設は日没までしか解放しない。日没になったら終りという原則があるわけでございます。これは県からもそのような指示指導があるわけでございます。

したがって、私たちのほうでは部室に電気を引くということがかえって、それでなくても試合の前になりますと、そういう傾向がどうも助長されるのではないだらうか。青少年健全育成という全体的な立場から立っても、学校の敷地内で行なわれる部活動というのは、時間的限界があるのじゃないか。そういうことも考え



て私たちは教育行政の措置及び指導をしてきたわけでございます。

。一〇番（渡辺軍治郎君） 学校側がろうそくをつけてあるいは生徒が室に入るのを知らなかったということは、そこにもう一つ問題があると思うんですが、部活動というようなことでクラブ活動以外のそういう部活動の中で起こったということですが、こういうろうそくをつけて室に入ることを学校側が知らないでいるというところが、その日だけなら、前から引き続いてやられておったことです。から、それを知らないでいたというふうなことになる、問題でありまして、子供の注意力によって外に出るときに消して出るとか、そういうような注意力を子供の責任にすることは、これは間違っていると思います。こういう子供にまだ火災に対する危険性とか、そういうものを深く考える、つけたろうそくを出るときに始末していくという子供の注意力に期待しているということでは間違うので、そのところは学校側は知らないでいたということなことで、これはやはり問題だと思ひます。

電氣をつけることが、かえって時間をかなり延長するような、助長するようないやうな御答弁だったんですが、いまだき電氣のない校舎というの、もしほかにあったらすぐにそういうようなことはなくしていく。おそらく知らないでいたということもあるかもしれませんが、今懐中電氣があるわけですよ。裸ろうそくをつけて学校校舎に、しかも放課後入るというようなことは、そういうようなことがその日ならとにかく、前からやられていて知らなかったということでは、これは済まないと思ひますね。

そこらの点がはっきりしないと、学校側の責任なのか、それと

も教育委員会がそういうことを知らないでいたということでは、教育委員会としても監督上済まされない問題だと思ひますが、そこらの点があまりはっきりしないので、そこらをもう少し解明してもらいたい。

。教育長（高木 正君） この室は学校側として部室として認められていなかった室であるわけであります。

と同時に、教育委員会としては、クラブ活動という部活動を明かりを使わなくても済むような状態において終了させたいわけでございます。したがって、渡辺議員さんのおっしゃる通りに万一の場合を考えまして懐中電灯は用意するつもりであります。今回の館山二中の復旧予算の中にもこの懐中電灯十個分をお願いしてあるわけでございます。

それから、教育委員会と学校との関係でございますけれども、教育委員会のほうには各学校の施設台帳があるわけでございます。それから各学校には備品台帳があるわけでございます。それは照合しましたり、現場に行ったりして両者で確認し合ったりして、そういうことも行なってきたわけでございますが、私どもの監督不行き届きのために、こういうような大きな損失と御迷惑をかけた本当に申しわけないと思っておるわけでございます。

。一〇番（渡辺軍治郎君） このろうそくが学校で買っておったものか。生徒自信が買って持ち込んだものか。そういう点がまだはっきりしなかったわけですが、その点はどうですか。

。教育長（高木 正君） このろうそくは、四月中旬頃四人のうちの一人の子供がなぎさ銀座のある商店で買って来たわけでございます。



。一一番（山本 昇君）二、三お尋ねいたします。

こうした二中の火災による市の財産が焼失したということとはまことに遺憾でございますが、この問題につきまして、市並びに教育委員会においては、早速児童の教育ということを大事にするというたてまえから、先般全員協議会を開いた上で一応基本的な考え方を示されたわけでございますが、そのときのお話と、今回これに上程されましたところのあれがちょっと違うような点がありますので、その点について二、三お尋ねいたします。

あの全員協議会のときには、ブレハブの教室を十四建てたいというようなお話してございました。しかし本日の説明によりますと十二になっておる。それからそのほかに小部屋が二つというところになっておりますが、これで果して教育に支障がないか。あるかないか。そういうことを一つ解明お願いいたします。

それからさらにまた、その当時市長さんのほうからお話があった木更津で何かブレハブ使ったもので多少譲ってもいいというようなお話があったということを私も聞いたんですが、その後そちらのほうのあれがどういうふうになって、どのような処置をされておるのか、この点を一つお示し願いたいと思います。

それから、ただいまの質問に関連いたしますが、何としても中学校の体育の向上というものは必要でございます。したがって体育の奨励をされていることは当然でございますが、たまたま今回火事になった二中のマラソンの選手の子供たちがこういう間違っているといいますが、過失を起したということでございまして、その部室は学校では部室として認めなかったというような教育長さんのお話してございますが、学校自体が認めてないものをなぜ子

供たちが使っておるのか。この点は私はちょっと疑念に思うわけでございます。

と同時に、少なくとも体育の向上をはかるために、体育の奨励をされている以上、クラブ活動に対して十分なる処置をしてやるべきではないかと思いますが、そうした認めてない部室を子供たちがかってに使ったのだというような態度を示すことにつきましては、私は学校並びに教育委員会のその考え方について、私は疑念をもちます。その点について将来どのように考えていくのか。その点一つお示し願いたい。

それからさらにまた、教育長さんは少なくとも放課後日没までに体育のあれを終わらせるようにという指導であって、したがって部室に明かり、電灯等をつけることは、かえってそうした基本的な考え方にそわないからあえて電灯をつけないのだ。こういう教育長さんのお話してありますが、少なくとも、私は児童生徒のこうした体育向上のために意欲を持っておるこの子供たちに対してやはり今までの例でなかなか学校でいっても、子供たちは熱心のあまり遅くなるということがしばしばあります。現実にあると私耳にしておりますし、今回の事件をみてもそういうわけでございますが、そうしたことをやたらに押えるということは、これもどうかと思いますので、それに対して今後市内の小、中学校における体育の部室に対して現在どのようになっているか。また将来どのように考えて処置していくか。この点を一つ基本的な考え方をお示し願いたい。

。教育長（高木 正君） お答え申し上げます。

まず、ブレハブ十四が十二になった件でございますが、はじめ



は普通教室十、英語教室一、保健室一、それから三年の子供が主として入るといので、三年の教師のための教務用の室一、それから給食の受け入れ室、計十四つくるつもりだったわけでございます。そうしますと、あの防火壁と防火壁の中に三年生用の教務室があるわけでございますけれども、屋根及び天井の一部を修理することでするわけでございます。これが一減ったということと、それから給食をできるだけ早く実施しなければならぬという事で給食の受け入れ台を現在の木工室のところに付くつておるわけでございます。そのために給食の受け入れの室が一ついらなくなつたということでございます。

それから、木更津のプレハブの件でございますけれども、木更津のプレハブは、まず床が九ミリのベニヤ板でして、歩きますと非常に音がする。風が強いと窓が飛ぶということと、それからトタンとその下の板との間に断熱材がないために暑かったり、寒かったりするという、その他いろいろの不備の点がみつかったわけでございます。また、木更津では現在学級増が非常に急激に行なわれておるためにプレハブを必要とするということで、市側は貸してもいいということでございましたけれども、教育委員会側が学校の現状はこうしてもう目の前に必要が迫っておるのでということでございます。

第三点目の子供に責任をしようしてはいけないということは、本当に子供でございますして、私たちもその点について苦慮しておるわけでございます。

それで、二中には、現在部活動している部が十一あるわけでございます。それに対して部屋は十五あるわけでございます。とい

いますのは、男の子と女の子の子が一つ部の中に入っておる場合には二つの部屋を必要とするわけでございますけれども、もう少しこれを補充しなければならぬわけでございますけれども、部室をつくるか、それとも教室を使うかというようなことは、これは学校管理上いろいろの問題があるわけでございます。その面につきましては、今後至急学校側と検討していきたいと思うわけでございます。

それから、電灯をつけるということにつきましては、いろいろ御意見いただきましてありがとうございます。私たちもう一回これについても現場側と検討してみたいと思ひますけれども、実は、私どものほうには父兄の方々から部活動が遅くなつて帰宅が非常に遅くて困る。心配だからもっと早くしてもらわなければならぬということがずいぶんきておるわけでございます。そこで私たちのほうでは、日没までには学校のスポーツ活動は終るようにしたい。こういうことで一応電灯につきましては、先ほど申し上げたような原則を立てたわけでございます。以上でございます。――一番（山本 昇君） ただいまの教育長さんのお話していただきますと、とりあえずこの予算書に盛られた程度のプレハブで十分授業に支障がない。かようにお考えでございますね。それと。

それから、プレハブのこの問題でございますが、木更津のほうの協力をいうことだったんだけれども、そういう結果でできないということである。もちろんつくつておけば仮りにまた二中が新しくできた場合には、この施設もほかに利用できると思ひうのでどうのこうの不在んですが、当初のあれからみると教室が少なくなつた。どうしてこんなに少なくして出した。私が聞いたとき



教育長さん二千五百万かかるという説明で、この予算をみると五百万も減っておるといふことで、予算の関係でそういうふうにならしたのではないかといふことで聞いたんですが、教育上支障がない。こういう立場に立ってこういうことだといふことでそういうふうにお考えおるわけですね。

それから、なお一つお伺いいたしますが、少なくともこうしただけが再び繰り返されては困るということは、これは市民ひとしく考えておることでもあります。

そこで、全員協議会の席上でも特に教育長にお願い申し上げたことは、学校の管理というものについて一つ十分なることをしていただきたいといふことを、特に強くお願い申し上げましたけれども、これに対してどのように考え、あるいは各小、中学校に対するどのような行政指導をなされたか。その点も一つお聞かせ願いたいと思います。

それから、さらにこれに関連いたしましたして、先ほど全協の席上で市長さん一中並びに二中のいわゆる防音校舎の設立の問題につきましての一応の構想の発表がありました。それにつきまして関連いたしましたして、二中がとりあえずああいう災害を受けたといふので、緊急にプレハブ校舎でやろうといふことでありますが、もしこの二中が防音校舎といふことで、国の補助を受けられて建てる場合に、現在の場所にやるつもりなのか。別の場所にやるつもりなのか。その点も合わせて参考に聞かしていただきたいと思っております。

。教育長（高木 正君）　まず第一点目でございますけれども、二千五百万からみますと、たしか三百四十万程度減っておるわけ

でございます。

これにつきましては、まず二点申し上げたいと思っておりますけれども、第一点目は、この予算を編成する際に中学校側と協議しまして、学校側の要求はできるだけこれを満たす。ただ、満たし方としては現在の年当初でございますので、手持ち予算でできるものは手持ち予算でやらう。それから市内の各学校が学級減によって、たとえば黒板があるとか、それから教師用の机があるとか、そういうようなものがありますので、教師の使うものについては、そういう各学校にある現物でできるだけ間に合わせていきたい。それから普通教室に使うものは全部新しくしたい。普通教室の場合に使う机、腰掛は全部新しくしてらう。それから安房高から生徒用の机約百脚きておりますけれども、それは英語教室のようなところに使っていく。そういうようなことでございまして、教育委員会と二中が合意に達した予算を市長部局に提出いたしました。それはそのまま全部認められております。

プレハブの広さでございますが、室の数と広さにつきましては学校側もこれで十分だといっておるわけでございます。ただ、プレハブでございますので、本建築とはいろいろ違うところがあると思います。

それから、最後の再び繰り返すなといふことにつきましては、本当に私たちは申しわけないと思っております。申しわけないと思えば思うほど、この繰り返さないといふことについて考えておるわけでございます。

学校側にも、特に子供を帰すときに、帰ってしまったというところとを厳重に確認するように。それから帰ってしまったあとを、単



に室の前を通るのではなくて、一つ一つの室の中をあけて確認するように、したがって、もしもあけそこなっても通路からその室の中がみえないような状態になっている室については、これは扉なり、窓なりを改造する必要があると思うわけでございます。

ですから、あの階段の下の室も扉がない、扉にガラスの部分有一部分あれば当然中がわかったわけでございます。それを現在調査してその営繕計画を進めていきたいと思ひます。

現場に対しては、物的の面の管理では教育委員、物的の面人的の面、運営管理につきましては私、それから学校教育課長、体育課長、庶務課の職員がかわるがわる行って、現場と話しておりますし、それから県の教育庁の出張所でもこの指導はされているわけでございますけれども、現場はどうしましても子供たちの直接的な教育内容、方法ということに埋没するわけでございますから、私たちの監督がもっと行き届いておれば、こういうことがないと思ひますので、今後私たち自体の監督、管理というものを十分していかなければならないと思うわけでございます。

それから、二中の場所につきましては、現在のところは理想的には移転改築のほうがいいと思ひますけれども、現在の状況においては現在の場所に改築するという方向に教育委員会の意見はまとまっております。

。一番（山本 昇君） ひとつ今後学校の管理の問題につきましては特に御留意願いたいということであります。

それから、先ほどの部活動の問題でありますが、たまたまこういう失敗を起こしましたけれども、とにかく部活動が教育委員会並びに学校側の方針より以上に積極的にやっている部がございま

す。そのために、また先般長須賀の放火事件があったときに、たまたまその子供たちが早く部活動をやるために練習にきていて、それを発見して消火作業に従事したということも聞いておりますので、これは非常にいいことでございます。ですから、必ずしも遅くなったりすることがわるいということではないし、これは子供たちの希望を伸ばせるような、原則的に子供たちの希望と意欲を伸ばせるような方法によって御指導願いたいということをお願い申し上げます。

それから、さらにこれは関連して一応参考に関きたいんですが二中の再建その場合に、できればほかにもっていきたい。しかし現実の問題として現在のところでもというお考えが示されましたが、それに関連いたしまして、あそこの土地の問題でございます。あれは市有地でなく、ほとんどごく少数が市有地であって、ほとんどが個人の所有でございます。

これにつきまして、なにか個人の所有者が委員会のほうにお願いして、いろいろないわゆる財政の関係から市で購入してもらいたいということは何回となくお願いしておる。それが一向に実行されない。とにかく学校の施設のことであるからということで一応がまんしておるけれども、それがされないと、たまたまその家のおとうさんがなくなられて、あとを引き継ぐについていわれる相続税ですか、そういったものを多分に取られるので、この土地を売りたいというような切実な問題があるにもかかわらず、市のほうでひとつも買ってくれないということがあるんですが、こういったことにつきましてですね、ひとつ将来市が学校を建てあるいはまた現在市立の小学校、中学校におきまして、国の所有の土地



があるように聞いております。そういうものを今後どのように進めていかれるつもりであるか。合わせてお考えだけ聞かしてください。

。教育長（高木 正君） 教育財産の取得は、市長部局の仕事でございすけれども、直接は教育委員会にかかりますので、私のほうから経過及び状況を申し上げたいと思います。

その前に、先ほど部活動につきましては、本当に御高見たまわりましたありがとうございます。

それから、二中の土地のことでございますけれども、現在のところ鈴木さん、杉本さんの土地につきましては、購入計画を立てて一部購入しているわけでございます。

それから、先ほど具体的にお話のありました方は、代替地をよこさなければということでございますが、これはかなり前でございすけれども、こちらのほうで、市のほうで代替地を示しましたらそれではいけないということとんざしていたわけでございます。それが、ご主人がなくなられる前にあそこの代替地ならばよろしいということでそういうったような土地の代替の措置は一部分分したところでございます。

最近、土地を買ってほしいといったようなことがございますので、これは市長部局のほうと相談しまして、漸次購入の方向へもっていくように教育委員会としても努力したいと思っているわけでございます。

。一一番（山本 昇君） 教育長さんのお考えは一応了解いたしました。これはそうしたことにつきまして、この各学校の土地に対する今後の方針といえますか、考え方、市長さん将来どのように考

えておられますか。参考にお教えいただきたいと思ひます。

。市長（本間 譲君） それは二中の問題だけでなく、ほかも含めてというんですか、二中ですか。二中のあれは防音校舎としてやる場合には、正式に借り入れ契約ができなければいけないこととさまなければ自己所有どっちか、権利関係がはっきりしなければ防衛庁のほうでは認めないわけです。ですから、そういう関係でどうしても買ってもらいたいという人は、話し合いで買収をしなければならぬと思います。

ここで、大きな問題としては中村さんの地所を長い間お借りしであるわけでございますが、この問題についてこの間秘書での方がこられていろいろ話し合いがございましたが、とにかく貸していただきたい。あとは中村さんのほうのお考えで、うちのほうの金の関係もあるから、あそこへ防音校舎を五十年ぐらいですか、そういうことになりますから、買収ということにもっていかなければならぬでしょうけれども、すぐというわけにいかないから、その時点においてなるべく代金支払い等は市のほうで予算を立てて、払い得る年度にだんだんに払いようなことでどうかということも話し合ったら、別にたいして金も必要でないからということで、私はいいと思うというようなことでお帰りになってまだ返事がきませんが、貸していただくということは了解されておるわけでございますが、いずれにしてもこれは買収しなければならぬ問題だろうと思います。

ですから、結局いつまでただ借りておくわけにはいきませんから、財政を無理してもどうしても買ってくださいというものは、買うということに進んで参りたいと思ひます。



。一八番（安西益男君） 若干お伺いいたします。

先ほど、市長からの説明によりまして、今後再びこのような事故は起こさない。十分気をつけていくというような御説明があったわけでこれは当然だと思いますが、そこで、今後こういった事故がないためにも、あのような事故に対して十分反省していかなければならぬ。いろいろ説明の中にも非常に問題点が確かに幾つかあるというふうに感じられます。もちろん管理上、もう少し管理が徹底していたならば十分防げたのではないかという点もみられます。まだまだそういったあれが緩慢ではなかったかという点も見受けられるわけでございます。

そこで、どんな点がどのようにいけなかったのかという点も掌握されていると思います。先ほど御説明もありましたように、ろうそくの使用はいけないということで知らなかったということでございますが、これは毎日使っておることも事実であります。当然それは知っておったわけでございますから、室をみればろうそくのあれがすぐわかるわけであります。そうしたところにそういった関係の監督の不十分の点がございしますので、学校管理規則というところに、雇員については「上司の命を受け、労務及び作業に従事する。」この関係についてどんなふうなことが。お聞かせ願いたい。

それからもう一つは「校長は、教頭又はこれに準ずる者に消防法第八条に規定する防火管理者を命ずる。」この点も御説明願いたい。このように存ずるわけでございます。

いずれにしても、まだまだ市立の校舎、木造のほうが多いわけでございます。ですから、十分今までもそういった先ほど御説明

のとおり、さらにまたこの事故対しましていろいろな不備点あるいは監督不十分だった点、そういった点もどのように考えておられるか。そしてまたこのような問題を再び起こさないように具体的にどのように対処しておるか。おわかりになっておると思いますので、その点ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

。学校教育課長（小宮孝元市平君） 管理規則によりまして、消防法第八条によりまして学校には管理責任者を置くことになっております。これは学校長が職員の中の一名を防火管理者に委嘱して、責任の衝に当たらせるわけでございますけれども、主として学校長は、教頭に命じているのが実情でございます。教頭は一定の講習を受けまして責任者になるわけでございます。これは規定によりまして消防署に報告することにしてございまして、二中の場合には教頭がその責任者になっておるわけでございます。

なお、木造校舎の管理でございますけれども、おおせのとおりでございます。この管理につきましては十分意を配っていかなければならぬわけでございます。特に、バケツを用意して水をはり、万一の事態に備えるということは、これはどの学校でもやっているし、指導しているわけでございますが、その他火器の使用につきましては、教育委員会としては十分防火の施設をするように配慮しております。学校もそのようにやっている状況でございます。

。一八番（安西益男君） 先ほど申しましたように、いろいろな不備の点、欠点が見受けられるわけだということは、先ほどの御説明にあるわけでございますので、その点どんな点がいけなかったかという反省がなければ、これらの情勢に対処する姿勢がなければ



は、再びこういう問題が起きれば問題なんだということで、その点十分掌握されておるのかということをお聞かせ願いたいと思います。

。教育長（高木 正君） 先ほど申し上げましたとおり、私たちとしましては、子供が完全に帰宅したかどうかということの見通しでございます。

もう一つは、施設の一つ一つを細かく異常がないかどうか確認するという二点に問題があったわけでございます。

これが、高等学校の場合でございますと、勤務時間内でございますので、相当これが的確に行なわれておるわけでございます。ところが、中学校の場合には勤務時間の終りに、その日の日直がずっと見届けているわけでございます。そうしますと、あと宿直者がそれにかわって見届けるわけでございますけれども、見届けた結果というものは宿直日誌または学級日誌に出てくるだけでございます。

したがって、そうなりますと、一人一人の先生方の勤務の自覚というものをうながす面と、それからあとは勤務時間外の管理体制制というものについてもう一回検討しなければならぬと思いますわけでございます。

。一八番（安西益男君） それがなかなか、やはり冬期になりますと、先ほど父兄からいろんな注意があったということが、事実相当帰宅が遅い点があるわけでございます。そういう点では電気は必要でないのだというお話しがございましたが、そういう点はおそらく今後も徹底されると思いますけれども、やはり当然木造建築に対する電気の施設はもちろんこれは必要だと思ひます。

そのように現在いけないのだということは、実際やはり児童が使っておることが事実でありますから、そういうことは準備としては当然電気をつけるということは十分考えていかなければならないと思います。大きな事故によって市の財産をなくすということについては、事前に電気の設備があったらと思う。この時期においてつけるんだという線にのぞんでいただきたい。そういうふうに考えておるわけでございますが、もう一べんその点確認願いたいと思いますけれどもどうでしょうか。

。教育長（高木 正君） 前の二人の議員さんに申し上げたとおりでございますけれども、私たちは学校から一定時刻までには子供が帰るといふことの励行と関連させながら、その部屋の電灯施設については検討していきたいと思うわけでございます。

。一八番（安西益男君） それとですね。さっき消防法にどうかということになっておりますが、バケツとかそういういた体制は準備だけであって、学校の生徒に対する姿勢をもうちょっと徹底させていただかないと、今後そういういろいろな用意してあるのだけどもというだけではいけないと思ひます。

また、消防防火装置ですか、あるいは自動装置をつけるとか、そんなふうな近代的な方法も考えていられるかどうかという点等も、今のことでですから、非常に品物があると思ひますので、そういう防火施設等について未然に防ぐというような施設を考えたおるかどうか。そんな点はどうなるものでしょうか。

。学校教育課長（小宮義夫 市田隆夫君） おおせのとおりでございます、今度教育委員会といたしましては、防火思想の普及ということ、それから管理の面でそういう施設を今後十分バケツだけの問題に



やございませんで、消火器とか、消火栓施設の問題も徐々に解決していかなければならないということを痛感しておるわけでございます。ぜひ、今後そういったように取りはからっていききたいと思ひますのでよろしく。

。一八番（安西益男君）　いろいろこの点につきましては、何べん各学校校長等とも協議して対処するという説明もございましたので、十分その点もさらにまたいろいろの点を再確認されまして再びこういうことの起こらないように十分御検討願いたいと思います。

。一六番（五十嵐　昇君）　今までの御説明で大体わかりますが、学校関係のほうは最近では当直あるいは日直というものを廃止されておる。当市は当直あたりも先生方が少ないからということで代行員等も置いてやっておるようなことですが、当直があるからといっても一ぱい飲んで寝てしまうということ、かきがあかつておるといふことも往々見受けられることでございますが、いたからといつてもしょうがないしというふうな、無人のようないことも聞いておるんですが、果してその点事実そうであるか。

なおまた、最近防犯関係もときどき犯罪起こっておりますが、防火、防犯ともに十分な措置を再検討願って賢明なる措置をはかつていただきたいと思います。それらは要望いたしますが、現在どんなような環境になっておるか。今後の方針等あるいはその方針については市独自の考えであるか。あるいはどういう方面からの指導によってやっておるか。そういう内容について教育長さん。

。教育長（高木　正君）　学校の無人化につきましては、県教育

委員会の指導を受けて積極的な指導を受けまして遂行しておるわけでございます。

私たちのほうとしましては、中学校につきましては、神余小中だけでございまして、ほかの中学校についてはまだ無人化は行なっていないわけでございます。といいますのは、現在の生徒の帰宅その他校内における活動の状況が現在のとおりでございますので私たちとしては、中学校の教員の宿日直の廃止まで踏み切れないでいるわけでございます。

ただ、県の指導では、学校を無人化しても学校事故の発生頻度は、宿日直がいる場合とかわらないということでございます。

それから、宿日直の勤務でございますけれども、特に宿直の勤務は勤務時間が終わって引き継いだとき学校を一回巡視する。寝る前に一回巡視する、朝起きて次の日の日直に引き継ぐときに一回巡視するというところでございます。この巡視と巡視の間に相当時間がございますので、その間に外部からのいろいろのことがありますと、防止しきれなくなってしまうわけでございます。

。一六番（五十嵐　昇君）　いろいろ人間わざでございますから、そうびたりとはいかないと思ひますけれども、それでは先ほどもからの思想的な問題もございしますので、非常に防犯、防火ともに厳重な御指導願ひまして、今学校内の備品にしても相当りっぱな相当額のものが入っておるように見受けられますので、何を一つ取られても損失になると思ひますので、厳重なる御検討願ってそして教育を願ひたい。以上要望いたしまして終ります。

。二二番（田村源治郎君）　今度の二中の学校の過失について、予算について学校の管理等はずさんのものが相当含まれておるけ



れども、今後この学校の点に対して教育長はいかにその措置を考  
えておるかということが見受けられない。

一点をいうならば、プールがあればその点よかった。あそこ  
は川があったから消火力は大きかった。さっきから説明を聞くと  
バケツ、小規模のことばかり考えておる。学校にプールというも  
のがあるのだ。私たちが視察に行ったびわ湖の長浜は、プールが  
火災予防にとっていいのだという市のやり方をもっておる。プ  
ールがあればその水が多い。長須賀の火事でも川があったからそ  
館山市が連火を免れた。二中学校でも川があったからこそ間に合  
った。バケツで消火といっても今の科学からいっても身近かのプ  
ールがあれば、教育長その点いかに考えておるか。市当局。

それから、次は学校であるけれども、火災を予防するにはも  
と鉄筋化を考えたものをなぜつくりえないか。二度も起こるよう  
な木造を何ゆえに使うのだ。いかに金がなくとも現実において鉄筋  
化を考えたものをつくり上げたらどうだ。現在二中にまたつろ  
うとするものであるか。鉄筋化を考えて火災を完全にする。耐火  
耐震そのものを考えたかどうか。市がやらせる以上はちやちなも  
のをこしらえることはない。その点どう考えておるか。

次は、市の千四百四十万、二十五カ年間の八分で都合がよかつ  
たら返ししょう。市は何ゆえに千四百四十万、二十五カ年に片  
づけるよりな、四十七年度は二百万の予備費である。市には金  
がないのか、どう考えておるのか、市財政課はどう考えておるのか  
千四百四十万円、二十五カ年の月賦、いかなる事情があつてどう  
するのだ。今後何とかできるのか。何もかも起債にあおがなけれ  
ばならないのか。これは五カ年間なり、四カ年間なりの償還なら

あえて起債に求める。二十五年も起債である。都合がよかつたら  
返ししょう。市は全然金がない証拠を現わしておる。四十七年  
度は二百万の予備費しか取ってない。今後天災、人災があつたら  
どうするのだ。どう考えておるのだ。その一点を明らかにして、  
もっと出せるというなら、もっと安全なる学校をつくってやる。

たかが二千万の金におけるものは、起債が一千万年ということ  
は、館山市としてみじめな財政の暴露である。その点お伺いま  
す。今後いかなる事業が多くきて、たつた二千万ぐらゐの金で貧  
弱財政。すぐ復旧にかならなければならぬ事業である。

○議長（吉田勇治郎君） 二二番議員の答弁は保留いたしました、  
午前の会議はこれにて休憩いたします。

午後は一時本会議を再開いたします。

午前十一時五十九分 休 憩

午後 一時 六分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十二名、休憩前に引  
き続き会議を開きます。

二二番議員に対する答弁を求めます。

○教育長（高木 正君） まず第一点の消火施設、設備の面でござ  
いますけれども、田村議員さんのおっしゃるとおり、学校のよう  
な大きな建物、しかもたくさんの子供たちのいるところでは、火  
の小さいうちの装置、消火するということ施設とともに徹底した大  
きな消火施設が必要であるわけでございまして、田村議員さんのお  
っしゃるとおりでございます。ありがとうございました。

第二点目につきましても、これは市長が提案理由の説明のとき  
に申し上げましたとおり、できるだけ鉄筋の校舎を建ててもら



より関係者で努力してあるわけでございますけれども、その鉄筋の建物ができるまでの具体的な措置としてプレハブ校舍をお願いするわけでございますので、よろしくお願いいたします。

。財政課長（長谷川広治君） 起債関係についてお答えを申し上げます。

千四百四十万程度のものを一般財源で措置できないかという御趣旨のようでございますが、御案内のとおり、火災の応急復旧関係の事業費につきましては、国も県も補助制度というものがございません。そのかわり起債を許可いたしましたして、年々返していきます元利償還金を普通交付税の中に入れて市町村に交付をするというたてまえになっておりますので、結果からみますと、補助をなくすしでもらったというような解釈になるわけでございますので、そのほうが財政運営上有利であろうという考え方から、今回少額でございますが、計上いたしてございます。

。二二番（田村源治郎君） 一点の消火設備であるけれども、積極的設備がなくて消極的設備でやっておると、それが果してプレハブ住宅がまた火事になったらどうするのだ。万全の策か、市はいつも何ごとも万全の策というけれども、口では積極的をとなえて仕事をする面の積極性はない。大局的にみて積極性のない館山市の学校そのものが多くある。

富崎も木造家屋が多くある。火事が一たん出た場合いかなることをするか。水が近くにあればいいけれども、学校なんか無人化しているところだ。自分の住宅が風の強いときには自分の家すら消火もできない始末になってくる。ましてああいふふうな風がなかったからいいようなものだ。富崎なんか特に冬になればみんな

が夜、昼行っておる状態だ。あんな消火栓で火事発見して、消火栓で消してもほんの初歩だ。工事は大きくなるのは発見が遅れるために大きくなる。発見が早ければ消極的でいい、いかに理屈いっても水資源の大きなものが近場にあるときに、発見が遅れても消火の方法は早く済む。それらの点を十分に大きな建物に考えたことを今後実行していただきたい。それには、実行するということならば、こうして必ず実行する。来年度とか今後補正においてとか確信的のものを答弁していただきたい。

次は、鉄筋化であるけれども、間に合わないから鉄筋化をプレハブ住宅にする。学校なんか露天でもいいんじゃないですか。

（笑声）プレハブならばテント張りでもいいのだ。青空で学校では習えないということも考えられるが、アメリカでは露天でやっておる人もある。青空は健康的にもいい、ただ、間に合わせ主義のプレハブ住宅、予算的のものを設定をして、鉄筋化はいつやるんだというものなら私たちは納得するけれども、鉄筋化はいつ、来年度までの間にきちんと鉄筋化するために間に合わせのプレハブ住宅をつくるのだ。漠然とやるにはやりますということをいわれた場合には、来年のことであるか、再来年であるか。いつやるかわからない。

プレハブ住宅をつくるなら、鉄筋はいつの日から必ず始めましょう。設計はこのとおり始めます。必ずこういう学校をつくるという目標があるはずだろうと思う。この予算を出すにも、プレハブ住宅をつくるに對して鉄筋はいつやって、どういう設計でやるか。そのために間に合わせるのだ。期間を。鉄筋化をいつつくるのだから。プレハブ、バラック建てに永久的にやるものか。いつや



るか。その機会を鉄筋化することをきちんここに議場において約束してもらいたい。プレハブを考えておるけれども、本格的にはいつつくと、来年なり、いつつくるという構想の家という構想をはっきりしていただきたい。

次は、市で助成がいいから千四百四十万、三千万でやったらプレハブの住宅教室ができるじゃないか。もっと内容が充実するんじゃないか。それならばそれにかえたほうがいいじゃないか。その点も御答弁お願いします。

○市長（本間 譲君） 田村議員さんの御質問に対して答弁申し上げますが、先ほど協議会でちょっと申し上げましたがつまり防音校舎として二中は来年度やることに内定しておるわけですが、火災によりまして早くやってもいいというような陳情をいたしましたときに、防衛庁のほうでは、本年度末に取りかかれるようにそういうわけならば心配しようというようなことであるわけですが、防衛庁の助成を得なければ直ちに本建築を考慮すべきじゃないかと思いますが、七五%という高額の助成でしかも防音校舎、こういうことになりましたので、それをあてにしていることのほうが有利であるし、子供のためにいい。こういうことになるわけでして、防衛庁のほうでは本年度末に着工ができるように、私どものほうですぐできるようにやってもいいといったら、今年度末に着工できるようにしようという話し合いでこの間帰ってきたわけでございます。

それから、木造だから鉄筋だから火災が起きての被害がどうのこうのということは、鉄筋でもいつかの大阪のデパートのようなこともありますし、千葉でもありましたし、鉄筋だから火災的の

ものは絶対的のものだということはいえないと思いますが、また木造だからといってえらい不安だというようないえないうちも思いますが、要は、先ほどいろいろ議員の皆さまから御注意もありましたように、火災を起こさないようにすることでございます。なかなか一たん火災が起きると、鉄筋といえどもいろいろの問題が起きることも幾つかの例でわかっておるわけでございますが、木造であればなおさらいろいろの危険もあるわけでございますから、要は、やはり火災を起こさないように厳重にやっていくことが最も重要じゃないかと考えておりました、今のプレハブの問題、そういう防衛庁の助成の関係がございまして、当分の間使って、また一中やなんかをやる場合にもそれが必要になれば使うしその他利用方法があると思いますが、この際プレハブで一応御了承いただきたいと存じます。

○二二番（田村源治郎君） 今、市長が防衛庁の内定において七五%をもらえる。これは内定である。市長は確定ということはいえない。内定である。防衛庁でも狂う場合がある。確定しているのだという自信があれば、私はあえてさしつかえない。内定ということとは話をきめておる。取り引き関係で確定な確定ではないはずだ。その点において必ず間違いないという確定的な取り引きあるいはものがあればいいけれども、内定のものではなからうかと思うけれども、その点ひとつ確実に間違いない国が責任を持ってこれを話を取りきめてある。きちんとするようなものをもう一ぺん。

それから、その次に学校の火災についてですが、市長は今いわれたけれども、大阪のデパートの火災雑貨店で火災の内容が大きかった。あるいは千葉のデパートの火災も商品があつたために大



きかった。学校には商品の置き場所がない。学校には机以外のものはないはずだ。燃えないようなものを使ったら、学校は火災においてそんな火が次から次に移るようなものはおそらくないはずだ。火が移らないようにお互いに使おうというのが目標だろうと思う。木造家屋より鉄筋化のほうがいい。木造だからいかぬ、鉄筋だから同じだということはないと思う。木造のほうがあぶないと思う。これは市長の考え違ひのじゃなからうか。学校とデパートアパートそういうものを一緒にすべきではない。これは市長として考え過ぎじゃないか。その点を。

。市長（本間 譲君） どうも田村議員さんのお話しごもっとも私も思いますが、二中は来年度建設するということにきまつておるわけです。しかしながら、来年度では困るからなるべく本年にやっていたきたいということを要望したところが、できるだけ要望にそつて本年度着工のできるようにいたしました。こういうようなことでありますが、本ぎまりは来年度こういうことになつておりますから、その点をなるべくこれから運動して本年中に着工を、向こうでもそういうことを要望を入れておりますから、なおまた、これからの運動して今年着工できるようにしてやれば一年早くできるわけですから、その線で参りたいと思ひますが、本ぎまりは来年着工するということでございまして、明確に国が必ず本年やるということは申し上げられないんですが、その点は運動によつて実現はできるだけ私は考えておりまして、またこれからのその運動をして参りたい。こういうふうに考えております。それから、火災のときのいろいろのこと、なるほど田村さんのおっしゃるような場合やなんかと、もちろん違いますけれども、

やっぱり火災になるといろいろの問題が起きまして、鉄筋のほうがいいでしようが、燃えませんが、しかし火災が起きては困りますけれども、またどういうことになって事故が起らないとも限りませんし、いずれにしても十分なる管理、監督、注意ということが基本に私はなろうかと思ひますが、木造のほうが多い。それは火事に対しては鉄筋が一番いいわけでございますから、これからは鉄筋で今後一中も鉄筋でやる所存でやっておりますから、これからはなるべくそういうことで進みたいと考えております。御了承願ひます。

。二二番（田村源治郎君） 市長が今話された防衛庁のあれは確実に、努力次第によつてはもっと期間が短くなるということについて間違ひなく、そのとおりに努力して一日も早く二中の鉄筋化をお願いしたい。

それから、学校火災に対して特に嚴重に注意的の管理をし、火災の防備につとめて市当局はいたたく。要望して打ち切ります。

。一〇番（渡辺軍治郎君） ちょっと一つお伺ひしたいんですが、歳入のほうの火災見舞金七十一万七千円は、すでに見舞金が集まつておる。こういうふうなお話してはたけけれども、ある学校の付近の区から問題が一つ提起されているんですが、学校の火災によつて寄付を半強制的にやられるのではないかと、こういうふうなことが出ておりますので、PTA、その他から半強制的な寄付を呼びかけて集まつたものなのか、自発的に七十一万七千円がすでに集まつているのか。今後そういうふうな見舞金という形でも、寄付の運動そういうものをやっていくのかどうか、それをちよつとお聞きしたいと思ひます。



。市長（本間 譲君）

学校の建設については今までもやっておりませんし、今後もそういうことはいたしません。また、いろいろ寄付をPTAやなんかで強要したというふうなお話ですが、そういうことは、私はないと存じます。

。二番（林 豊君）

先ほど来、この火災の原因についてでありますけれども、教育長並びに関係の課長さんからいろいろ説明がございましたけれども、私はどうもこの説明の中で、どこに責任があったのかというような問題が明確でない。何か警察のほうで調べておるけれども、ろくろの不始末ではないか。ただ、教育長さんのおっしゃるには、その四名の生徒がその後学校生活の中でどんな活動しているか。その後ショックが取れたかということ心配されておるようなことで、私はどうもこの責任の所在ということが明確でないと考えます。

これは昔もあったんですが、信賞必罰主義でこの責任の所在を明確にすることにおいて、このことにおける火災の防止をつとめるといふことに大いに役立つのではないか。いたずらに教育委員会に責任を転嫁してみたり、あるいはまた市当局にその設備の上の不備を転嫁してみたり、そういうふうなことではなくて、なぜしからば火災の原因があったのか。その原因はどこにあったのかこれを管理するところの学校側の教師についてもしかり。あるいはまた、さらに細かくいえばクラブ活動を責任を持ってやっているクラブ活動の指導者もこれは大きな責任があるかと思ひます。

こういう問題をよく分析をした上で、はっきりと責任をただして、そうして今後このようなことがないようなことをすることが私は防火の一つの大きな要素ではないか。かように考えますが、

この点について教育長さん並びに関係の方たちけどんなお考えをお持ちですか。お伺いいたします。

。教育長（高木 正君） 私たちも関係法規、その他現場を調査しておりますので、そのような方向に現在進めておるわけでございます。

。二番（林 豊君）

ややもすると、非常に戦後かような問題について、非常に責任の問題を論ずるときに、何かうやむやのうちに責任がどこかに消えてしまうというふうなことが私は持たれるんではないかと考えます。こういうことを周知して、こういうことを徹底的に体してはじめて徹底した措置が講じられるのであります。また、今後の防止活動も発展をするのではないかと考えますのでこの点についてよく考慮した上でやっていただきたいということをお願いいたします。

。議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

。議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託を省略することに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。

### 討 論

。議長（吉田勇治郎君） これより討論を行ないます。

。一〇番（渡辺軍治郎君） 焼けた二中のプレハブ校舎をとりあえずつくるということには異議はありませんが、先ほど来の質疑の



中で明らかにりました点について問題があるんで、その点を触れて討論したいと思うんですが、火災の原因がろうそくの火の開始末にあったということは、これははっきりしているわけです。

ただ、それに対する教育委員会側の報告や答弁の中では三月十日からは、あの火災の起こった小部屋は使用禁止されているというようなこと、それからクラブ活動あるいは部の活動も日没以後はやらないようにというふうな、そういうお話ですが、実際には、かなり暗くなるまで運動部の活動ですか、そういうものがやられておるし、ろうそくの使用の点についても四月中旬頃から部の活動が始まっておって、たまたま五月四日にはじめてろうそくを使ったということではなしに、何回かその前にろうそくを使っております。

その点では、ろうそくを使った生徒に直接の責任はあるように思われますが、御答弁の中ではそういう状態を学校側も知らなかった。それを監督する教育委員会も知らなかった。こういうことでは責任の所在が、まだ注意力の乏しい生徒だけに負わせるというようなことは間違いだと思うんです。このことは、非常に生徒の中の四人の中の三人が大きなショックを受けてかなり責任を感じておるようには受け取れますけれども、問題は、生徒がこのようならろうそくを持って何回か教室に入っているというようなことを教頭が学校責任者であるし、学校側がそういう問題を知らないでいたということでは、これは済まされないと思うんです。そのことをまた教育委員会も知らないでいたということで、何か質疑の中の答弁では学校側や教育委員会が責任がないような、生徒に責任があるというような、そういう印象を強く受けたいわけ

ですが、私はこの責任は、まだ未熟な生徒に責任を求めるべきではなくて、ろうそくの火を何回か持ち込むようなことを知らないでいたという監督上の責任が非常に大きいと思う。そういう点を質疑の中で十分反省されたかどうかという点では私は疑問に思っています。

こういう点をはっきりさせて今後の対策を、そういう責任の所在の中から明らかにしていくということが正しい方向のいき方ではないか。そういうふうに感じますので、この点をつけ加えて、この補正予算には賛成いたします。

議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。

## 採 決

議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

## 議 案 の 上 程

議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第四十三号館山市助役の選任についてを議題といたします。

（助役島山 伝君退場）

（書記朗読）

議案第四十三号 館山市助役の選任について

## 議 案 の 内 容 説 明



○議長（吉田勇治郎君） 本案に対する説明を求めます。

（市長本間 譲君登壇）

○市長（本間 譲君） ただいま議題となりました本市の助役は、六月二日をもって任期満了と相なるわけでございまして、後任の助役に現助役畠山 伝君が最も適任と考えまして、推薦申し上げて皆さま方の満場の御同意をいただきたいと存じます。

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） 本案については委員会の付託を省略いたしましたと思います。これに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。よって決しました。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を原案どおり承認することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって本案はこれに同意することに決定いたしました。

### 閉 会 午後一時三十六分閉会

○議長（吉田勇治郎君） 以上により本臨時会に付議されました案件全部を議了いたしました。よってこれにて第一回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、報告第一号

一、議案第四十二号、議案第四十三号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議員

吉田勇治郎

館山市議会議員

伝田軍治郎

館山市議会議員

田村治郎



